

平成 26 年度 教育 研究 業績 書

氏名 東野治之

最終学歴	大阪市立大学大学院 文学研究科 修士課程 修了	
取得学位	東京大学博士(文学)(論文博第11206号)	
所属学会	史学会 木簡学会 美術史学会 和漢比較文学会 続日本紀研究会 大阪歴史学会 万葉学会 東方学会	
専門分野	日本古代文化史	
研究課題	木簡・金石文等の古代文字史料 東アジア交流史 奈良の寺院史	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・なし ・ ・ ・ ・
	大学院修士課程 担当科目 (博士前期課程含)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財史料学演習 ・ ・ ・
	大学院博士後期課程 担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・史料学特殊研究 ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・史料学概論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	東京国立博物館の客員研究員として、同館所蔵の法隆寺献納宝物の調査に従事。	
【教育上の特記事項】	実物資料との接触を重視し、逐次現地現場での指導を実施。	
【社会的活動】	日本学士院会員 東京国立博物館客員研究員 奈良県立橿原考古学研究所指導研究員 奈良県文化財保護審議会会長 大阪市文化財保護審議会委員 (財)山口文化会館 滴翠美術館館長 木簡学会・東方学会評議員	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	図書館長、通信教育部長を歴任。	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①『史料学探訪』	単著	平成27年2月	岩波書店	これまでには発表した論文、覚書等に 新稿を加え、古代から近代に至る各種 史料からいかなることが解明できるか を、具体的に論じた。
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①那須国造碑を読み解く	単著	平成26年5月	大田原市なす風土記 の丘湯上資料館編『那 須国造碑－時代と人と をむすぶもの－』	日本三古碑の一つ、那須国造碑の釈 読と建立事情について論じた。
②日本古代の漢字事情	同	平成26年12月	人間文化研究機構 監修『HUMAN』vol 07	日本列島に漢字漢文が定着する8世紀 までを取り上げ、8世紀初頭から始ま った本格的な律令の受容が、定着に大 きく寄与したことを論じた。
③幕末に発行された法隆寺の 紙幣	同	平成27年3月	『聖徳』223号	法隆寺が境内の東照宮修理のため幕 末に発行した銀札の意義を明らかに した。
④陽劔・陰劔の象嵌銘とその書 風	同	平成27年3月	東大寺編『国宝 東大 寺金堂鎮壇具 保存 修理報告書』	大仏殿から出土した古代刀劔の銘文 を検討し、その年代と意義について 論じた。
⑤				
(学会発表)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(その他)				
①蛍光X線による金銀字古写 経の成分分析とその成果	共著	平成26年4月	報道発表資料	西山要一教授とともに実施した古代 写経の金銀字の成分分析結果を公 表した。
②				
③				
④				
⑤				